



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京丹波町立和知中学校 】

1 実践テーマ	【 II V 】
2 実施対象者	京丹波町立和知中学校 第1学年16名、第2学年16名、第3学年23名 計55名 保護者・教師25名が参加
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( 親子人権学習 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	異なる価値観や文化に対する理解を深めた上で、グローバル社会における「おもてなし」をキーワードにして、いかにコミュニケーションをとるのがいいのか等、国を超えたふれあいのところについて理解を深める。
5 取組内容	平成30年11月17日(土) 午前9時50分～11時20分 親子人権学習 筑波大学・大学院 客員教授 江上いずみ氏による講演 演題 異なる価値観や文化に対する理解 ー グローバル社会における「おもてなしの心」 ー
	  <p>2020年に東京オリンピックをむかえる日本の一員として、海外から来られる人々に対するおもてなしの心のあり方について、異なる価値観や文化に対する理解を深めた上で、グローバル社会における「おもてなし」をキーワードにして、いかにコミュニケーションをとるのがいいのか等、国を超えたふれあいの心についてお話をしていた</p>

できました。  
次に示すのは、その講演の中の一例です。



生徒が提出物を出すときに、その出し方ひとつで、先生への印象度が変わることを、実際の担任の先生を相手にして実例として示すことで、マナーの大切さを理解させていただきました。



日本の習慣として、相手の人と挨拶をするとき、はずかしいので目をそらして話をすることが多いが、相手の目を見てしっかりと自分のことを紹介することが必要であることをまなびました。(英語での演習)



元気の無い時の姿勢や元気があるときの姿勢をからだであらわすことができることを実例で示し、姿勢によって人の印象をかえることができることを教えていただきました。

6 主な成果

昨年度は、「障害を負うこととスポーツの役割」と題して、バイク事故で下半身に障害を負い、友人の勧めの中で車いすバスケットボールに取り組むようになった話を聞いた後、実際に車いすバスケットボールを体験する中で共生社会のあり方について学習を重ねてきている。今年度はさらに、その学習を発展させ、いろいろな人達（国を超えた）の考えを知り、自らが行動することの大切さについて理解を深めることができた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

オリンピック・パラリンピックが2020年に東京に来ることを生徒にどのように理解させるのかについて、計画的に行事計画の中に盛り込み、学習の積み上げを図ることができるように工夫した。

8 主な課題等

障害者スポーツから考えを深めることができるように、車いすバスケットボールの体験からスタートして、パラリンピックについて意識を高め、さらに、異なる価値観や文化の理解という観点で、人の立場に立って考えることの大切さ、そして、その価値観や文化には違いがあることを理解させるところまで進めることができたが、今後オリンピック・パラリンピックにどのように関わっていくことができるかについて考えさせることが課題である。

9 来年度以降の実施予定

異文化理解について、さらに学習を進めオリンピック・パラリンピックをむかえる日本の一員としての立場について、さらに理解教育を発展させて行く予定である。